

觀世流

枕慈童

九月

シテ
ワキ
慈童
魏文帝臣下

「山より山の奥迄も。く。道ある時代成けり。

「抑是は漢の皇帝の臣下也。扱も此程南陽の酈県の山より。薬の水流れ出づ。其水上を見て参れとの宣旨を被り。唯今山路に赴き候。

道行
「心なき。山賤迄もたふとみて。く。迎へ靡くや草恙さへもなくして速かに。分けつゝ行けば程もなく。尋ぬる山に着にけりく。

「是ははや酈県の山に着て候。此谷川は薬の水にて

候べし。岸に添ひて水上を尋ねばやと存候。

「山迤邐として霜侵せる紅樹。水繁回として露潤す黄菊。あら面白の折からやな。

「ふしぎやな是なる庵の内を見れば。いと美しき童子あり。抑御身はいかなる人ぞ。

「我は周の代に慈童といつし者なり。扱又御身は何の為。此深山には分け入り給ふぞ。

「是は漢の皇帝の臣下なるが。薬の水の水上を尋ね

よとの。宣旨を被り來りたり。先々彼周の代は。
八百年の昔なるに。しかも妙なる童子の姿。こは
抑いかなる事やらん。

シテ

「我古へあやまつて。御枕を越へしにより爰に移さ
る。然れども我君猶浅からぬ御恵み。御枕に妙文
を記しまして給りぬ。されば我此水を以て。菊の
葉に彼妙文を写し。流れに浮かむれば即ち薬の水
となつて。寿命を延ぶるのみならず。神通を得て

詞

樂みの身に暮せるなり。

ワキ

「先々これなる御枕。拝み給へや人々よ。

ワキ
「是はふしきの事なりと。おのく立ち寄り御枕の。
妙文を拝し奉る。

シテ

「いでく舞楽を奏しつゝ。此まれ人を慰めんと。

同

「西に向ひてうち招けば。く。崑崙山に住居なす。

王母にかしづく仙女の数々楽器をてんでに携へて。
雲に乗じて忽ち来り。聞きもなれざる仙樂を。奏

せば。慈童は立ち出て。舞をかなづる姿も。たを
やかに面白や。 (樂)

地
「本来薬の水なれば。く。其身も変らず八百歳を。
既に経たりや猶ことぶきは。限りあらじなく此
御薬を。奉らんと。玉の甕を取り出で。薬の水
をみづから汲み入れ勅使に是を捧げつつ。所は酈
県の山路の菊の水。汲めやむすべや飲むとも尽き
じ。汲めやむすべや飲むとも尽きせぬ。齡を延ぶ
る。めでたさよ。